

都市大塩尻初の8強

女子

バレーボール

▽女子決勝トーナメント3回戦

東京都大塩尻 252520
151525 1 日ノ本学
(兵庫)

▽回弾々決勝
京都橋 2525
1715 0 東海大
(京都) 大塩尻



都市大塩尻一日ノ本学園 第2セット、都市大塩尻は中島(9)が押し込み、14-10(に=舞洲アリーナ(大阪市))

バレーボール女子の都市大塩尻が全国高校総体で初めて8強入りした。岡田監督は「強豪がいらない、ラッキーな組み合わせだった」としつつ、2試合がフルセットにもつれ込んだ決勝トーナメント1-3回戦を振り返って「厳しい場面で踏ん張り、よく勝ち上が

った。今後の自信になる」と成長を評価した。8強を争う3回戦で当たった日ノ本学園は「小さいけれど、うまさがあるチーム」と岡田監督。先発6人平均の身長は高さが武器ではない都市大塩尻よりも2センチ低く、最高到達点も11センチ低い。都市大塩

伸びしろ十分 底上げ図り冬へ

尻は第1セットを先取されたが、第2セット以降は、サーブで崩して拾って反撃する持ち味を發揮し、押し切った。

近年は、冬の全日本高校選手権で4強入りするなど全国上位をうかがい、有力選手も出している都市大塩尻。中心選手が入れ替わっても結果を出し、センター堀内は「歴代のチームに比べて弱いという自覚があったが、階段を一つ上れた」とうなずいた。

強豪の京都橋との準々決勝は、第1セットに10連続失点を喫するなどして完敗。展開の速さに一つ目のパスやレシーブが雑な場面が目立ち、岡田監督は「基礎、基本がなっていない」と厳しかった。先発6人は半分が1、2年生で、大会を通して控えの1年生の出場機会も多かった。伸びしろ十分のチームは、底上げを図りながら勝負の冬へ歩みを進める。(松井哲明)

■この記事・写真等は信濃毎日新聞の許諾を得て転載しています。
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会